2. 「わかる(知識)」

2.1 「わかる(知識)」評価と育成プログラムの考え方

「育成プログラム」による知識習得

食の6次産業化プロデューサー(以下、食Pro.)では、あらかじめ認証された「育成プログラム」の受講により、「わかる(知識)」を習得したことを確認します。レベル1、2、3から食Pro.のレベル認定に取り組む場合、まず、認定を目指すレベルまでの育成プログラムを受講します。

例えば、レベル2の認定を目指す場合には、レベル1を含むレベル2の育成プログラムを修了する必要があります。次に、専用サイトから「わかる」のレベル判定を申請します。申請を受けて、食農共創プロデューサーズは「申請者が育成プログラムを修了していること」を育成プログラムの実施機関に確認し、「わかる」のレベル判定を行います。

「育成プログラム」の受講を通じて受講者に習得してもらいたいのは、いわば、食に関するバリューチェーンについての共通言語です。「育成プログラム」としての認証基準には、学習内容の基準として、各レベルで学習する「科目」、各科目で扱う要素(P16「2.2『育成プログラム学習内容認証基準』の評価基準」で詳述)や各科目の必要履修時間だけでなく、講義形式を指定しています。

これは、学習した内容を共通言語として実際に使えるものにする上で、講義形式が重要な意味を持つと考えているためです。例えば、英語の習得でも、文法や単語の講義を聞いただけではコミュニケーションに使えるものにはなりません。英作文や会話の練習をしたり、英語を母国語とする人と交流したりすることで、初めて実践的な力が身に付きます。実践に活かすスキルを身に付けるためには、座学に加え実習、視察・ヒヤリング、事例学習などが必要です。

「育成プログラム」の体系

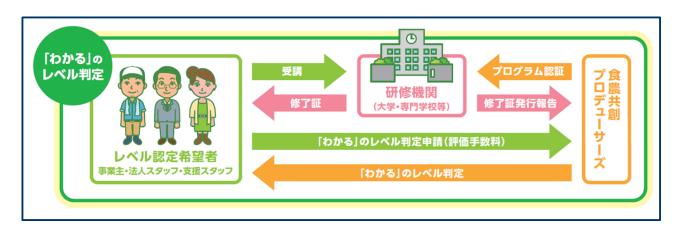
各レベルの学習内容は、順を追って習得しやすいよう に構成されています(次ページ、科目の構成図参照)。

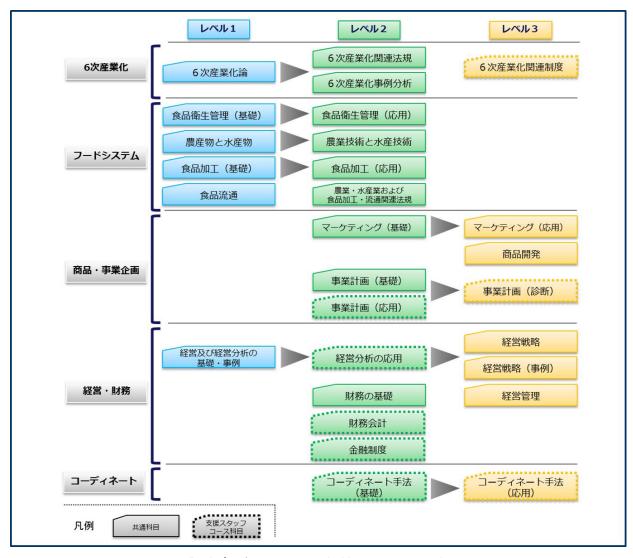
先ず、レベル1では「6次産業化論」で基本的な考え方、「食品衛生管理(基礎)」「農産物と水産物」「食品加工(基礎)」「食品流通」でフードチェーンを構成する各産業の基本的な知識、「経営及び経営分析の基礎・事例」で、経営的な視点の必要性などを学習します。講義形式は座学を中心としており、この分野に初めて取り組む方にも基礎的な知識が習得できるよう構成されています。

レベル2では、レベル1で学習した各要素をもう一歩 進め、より実践に近い専門的な知識を学習します。例え ば、レベル1の「6次産業化論」で得た基本的な考え方 をより実践的に学ぶ意味で、「6次産業化関連法規」 「6次産業化事例分析」といった科目が設定されていま すし、フードチェーンを構成する各分野については、 「食品衛生管理(応用)」「農業技術と水産技術」「食 品加工(応用)」「農業・水産業および食品加工・流通 関連法規」といった科目が設定されています。

なお、レベル2以降は、「事業主・法人スタッフコース」と「支援スタッフコース」という2つのコースが設定されています。

支援スタッフとは、行政機関、農協・漁協で働く方、コンサルタントなど、外部から事業を支援する立場の方です。支援スタッフコースでは、事業主・法人スタッフコースより幅広く高度な学習内容を設定しています。これは支援者としてより適切な業務遂行ができるようにという意図で設定されたコースです。事業主や法人スタッフの方でも、より幅広く学ぶために支援スタッフコースを受講されても構いません。





「育成プログラム」の科目構成(支援スタッフコース)

レベル2では、商品や事業の企画に必要な学習として、「マーケティング(基礎)」「事業計画(基礎)」といった科目がありますが、支援スタッフコースには、これに「事業計画(応用)」が加わります(この科目は、事業主等のコースでは、レベル3で設定されています)。経営・財務に関する科目では、両コースに共通する「財務の基礎」に加えて、支援スタッフコースでは「経営分析の応用」「財務会計」「金融制度」といった経営者の支援に必要となる内容を学びます。さらに、さまざまなバックグラウンドを持つ関係主体をつなぐために必要ということで設定されているのが、「コーディネート手法(基礎)」です。

レベル3は、それまでに学習した内容を実践に活かす上で重要な考え方やスキルを事例学習、事例演習(ケースメソッドを含む)、実習を通して「総合化」することを学びます。

具体的な科目としては、商品や事業の企画に向け「マーケティング(応用)」「商品開発」、経営・財務の観点から「経営戦略」「経営戦略(事例)」「経営管理」などです。また、支援スタッフコースではこの他に「6次産業化関連制度」「事業計画(診断)」「コーディネート手法(応用)」が加わります。

「育成プログラム」の実施主体

これらの育成プログラムを実施するのは、現状、既に 6次産業化の人材育成に取り組んでいる高等学校、専門 学校、大学、自治体、民間の研修機関等です。また、こ うした知識の習得がこれからの6次産業化分野の発展を 担う人材に必要と考え、新たにプログラムを組む方も想 定しています。

既に6次産業化の人材育成に取り組んでいる主体の場合、レベル1では農業高校や水産高校の授業の組み合せ、レベル2は農業大学校や農学、食品関係学部のある大学の授業の組み合せで実施可能と想定しています。また、レベル3は食の6次産業化、地域づくり等の人材育成を企図した大学や自治体等が社会人向けに開設している専門プログラムなどで認証できるものがあります。

この認定制度で規定されている学習内容の体系を活用して、新たにプログラムを開設して実施される場合には、後述の「2.2『育成プログラム学習内容認証基準』の評価基準」を読み、それぞれの科目のねらいを踏まえて設計することを推奨しています。

「育成プログラム」の認証

育成プログラムの認証にあたっては、まず、教育研修機関からの申請が必要です。申請にあたっては、申請書として、申請組織と対象のプログラム概要を記載する「プロフィールシート」、「自己評価票」(「育成プログラム学習内容認証基準」に沿ったプログラムが構成されていることを確認する)を規定のフォームで作成していただきます。これに加え、各教育研修機関の①プログラム構成と修了要件が確認できる資料、②講義内容が確認できる資料(授業計画書や使用教材等)、③組織概要を示すもの(パンフレット等)(①~③は規定のフォーム無し)を提出します。

「①プログラム構成と修了要件が確認できる資料」では、プログラムを構成する科目の全体像を把握できるよう、科目名、実施時期、実施場所、講師名、講師の所属、プログラム全体の修了要件を記載します。

「②講義内容が確認できる資料(授業計画書や使用教材等)」は、既存の学習計画書(シラバス)で示すか、フォームを作成して「授業実施年度」「科目名」「使用教材」「主な学習内容(各回授業の概要)」を科目ごとにまとめた資料を作成します。

提出された書類をもとに、次の「組織要件」と「プログラム内容要件」を満たしているか審査を行います。提出書類では、確認できない事項がある場合には、追加的な書類の提出や面談を要請する場合もあります。

[組織要件]

- ①会社更生法にもとづく更生手続の開始の申立が行われていないことその他財務体質が健全であること
- ②育成プログラムの運営に当たり必要な要員を有する ものであること
- ③その定款又は事業計画書の内容が法令又は法令にも とづく行政機関の処分に違反しているものでないこ レ
- ④暴力団員等がその事業活動を支配する団体でないこ レ

〔プログラム内容要件〕

- ①認証対象のプログラムは、次のいずれかに該当する ものであること
 - (A) 大学や大学校、高等学校の常設の学科/専攻/ コース/講座
 - (B) 時限的な教育プログラム
 - (C) 開講済みの(申請時点で終了している)教育プログラム(平成22年度以降に開講されたもの)
- ②認証対象のプログラムは、以下のいずれもの要件を 満たすこと
 - (A) カリキュラムおよび修了要件が文書で規定されて いること
 - (B) 名簿に登録するだけで修了できるプログラムでは ないこと
- ③カリキュラムの内容が「育成プログラム学習内容認 証基準」の要件を満たしていること

「育成プログラム学習内容認証基準」の構成

「育成プログラム学習内容認証基準」は、「科目名」 「単元」「講義形式/手法」「必要履修時間」から構成 されています。

「科目」は、「食Pro.として活動するために必要な知識領域を検討した内閣府のワーキンググループで示された評価基準に基づいて体系的に整理したもの」です。プログラムの認証には、申請のレベル・コースに配置されたすべての科目が必要です。

「単元」は、「科目の内容を規定する単位であり、教育研修機関のプログラムとの照合を行うためのもの」です。各科目を構成する単元の60%以上が扱われることが科目充足の要件となります。

「必要履修時間」は、各科目の充足を見る上で、最低 限必要とされる時間です。各教育研修機関で、受講者 ニーズに合わせて、この時間以上の講義をすればよいと いうことになります。

「講義形式/手法」は次の5種類が設定されています。 各講義形式の定義は次のとおりです。

〔座学〕

・テキスト等を用いて講師の話す内容を聞いて学ぶ。

[事例学習]

・単元の内容理解を深める目的で、実際の事例をもと に、単元の内容に沿って分析方法の使い方や分析し た結果の講義を聞く。(受講者が主体的に参加する 形態であることが望ましい)

〔事例演習(ケースメソッドを含む)〕

・単元の内容を体得する目的で、実際の事例をもとに、 受講者が分析及び第三者的評価を行う。 (ケースメ ソッド**であることが望ましい)

〔実習〕

- ・単元の内容を受講者自ら実際にやってみる。
- ・単元の内容をロールプレイングで仮想的にやってみ る。
- ・現場実習(単元の内容が実際に行われている現場に おいて、体験等を通じた学習を行う)

〔視察・ヒアリング〕

単元の内容が実際に行われている現場に出向いて、 実施者にヒアリングを行う。

[※]ケースメソッド:実際の事例等をもとに設定された事業環境や前提条件の下で、単元の内容を踏まえた上で、受講者が当事者になったつもりで意思決定をする演習を行う。

各レベルにおける「育成プログラム」の科目と単元、講義形式、必要履修時間の一覧表

レベル	科目名	単元		講義形式				必要履修時間	
			座学	事例 学習	事例演習	実習	視察・ ヒアリング	事業主・法人	支援スタップ
LEVEL1	6次産業化論	「6次産業化の意味と目的」「6次産業化のメカニズム」 「6次産業化のパターン」	0	, ,	// E			0分以上	0分以上
	食品衛生管理(基礎)	「農薬取締法/食品衛生法(及び関連条例)」	0					0分以上	0分以上
	農産物と水産物	「水稲/野菜/果樹/園芸/畜産/水産物/	0			0		0分以上	
	食品加工(基礎)	特用林産物の特性・現状」 「食品の種類」	0			0		0分以上	
	, <u> </u>	「食品の物流」「食品の商流」「食品の情報流」	0			0		0分以上	
	食品流通	「卸売市場・物流センターの視察」	Ŭ				0	0分以上	
	経営及び経営分析の 基礎	「会社・組織・法人の種類」「経営理念」「経営目標」 「経営資源(ヒト・モノ・カネ・技術・情報・ブランド)」「組織」 「会計の原理」「簿記の仕組み」	0					0分以上	0分以上
	経営及び経営分析の 基礎(事例)	「事例を用いた経営・経営分析」		0				0分以上	0分以上
LEVEL2	6次産業化関連法規	「6次産業化法」「農商工連携法」 「6次産業化や農商工連携の推進のための各種支援制度」	0					60分	60分
	6次産業化事例分析	「6次産業化の事例」		0				90分	90分
	食品衛生管理(応用)	「食品衛生管理の事例」「GAP・HACCP」 「トレーサビリティ/FCP(フード・コミュニケーション・プロジェクト」	0					60分	60分
		「栽培技術/漁法・養殖技術」	0			0		90分	90分
	食品加工(応用)	「栄養成分」「機能性食品」「食品の保存・加工・包装方法」	Ō			Ō		60分	60分
	農業・水産業及び食品 加工・流通関連法規	「農地法・都市計画法/家畜伝染病予防法/漁業法/PL法」 「JAS法/景品表示法などの表示制度」	0					60分	60分
	マーケティング(基礎)	「顧客と消費者」「マーケティングの定義・考え方」 「マーケティングプロセスの全体像」	0		0			30分	30分
	事業計画(基礎)	「事業計画書の作成方法ガイド」	0					180分	180分
	財務の基礎	「原価計算の目的」「原価計算の方法」 「収支計画の作成方法」	0					90分	90分
	事業計画(応用)	「事業計画書の作成演習」				0		_	360分
	経営分析の応用	「農業者・漁業者の経営分析」 「他産業の経営分析(食品メーカー/流通・販売業者/飲食店等)」	0		0			-	90分
	財務会計	「財務諸表の基本と読み方」 「主要な財務指標の種類と使い方」	0					-	90分
	金融制度	「農林水産、中小企業向け金融支援制度」	0					-	30分
	コーディネート手法 (基礎)	「論理的思考」「聴く」「書く」「話す」	0			0		-	90分
	事業計画(応用)	「事業計画書の作成演習」				0		360分	-
LEVEL3	マーケティング(応用)	「事業環境分析(内部環境分析・外部環境分析)」 「標的の設定(セグメンテーション・ターゲティング)」 「差別化軸の設定(ポジショニング)」 「4P(Product,Price,Place,Promotion)」 「ブランドの要件」「知的財産管理」 「プッシュ戦略・プル戦略」「店舗設計」		0	0	0		180分	180分
	商品開発	「設計・試作・テスト」「商品ラインナップ」 「商品ライフサイクル」「価格設定」		0	0	0		90分	90分
	経営戦略	「戦略の定義」「経営戦略と事業戦略」 「コアコンピタンス(何を武器として戦うかを考える)」 「ドメイン(戦う土俵を考える)」 「ポジショニング(戦い方を考える)※競争戦略」 「アウトソーシング・アライアンス・M&A(機能の調達方法を考える)」 「ポートフォリオ(経営資源の配分を考える」	0					90分	90分
	経営戦略(事例)	「経営戦略事例」		0				90分	90分
	経営管理	「組織/経営者論」「人的資源管理」「生産・販売・在庫管理」 「計画と進捗管理」「業務システムと情報システム」	0		0			90分	90分
	6次産業化関連制度	「損益分岐点」「収益性評価」「資金繰り」 「公的支援制度の活用方法」	0					 _	30分
	事業計画(診断)	「事業計画書(事例の診断・打ち手検討)」	Ť		0			-	180分
	コーディネート手法 (応用)	「リーダーシップ」「ファシリテーション」 「アイデアジェネレーション」「ネゴシエーション」	0			0		_	90分
		_				<u> </u>	<u> </u>		